

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

平成27年3月1日

編集：郡山市 JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会

郡山市農業振興課 Tel. 924-3761)

Vol. 1 播種準備編(床土の準備～出芽)

次回は4月上旬(育苗後半～田植編)



- ・市内水稻農家に塩化カリが3月末までに配布になります。
- ・塩化カリは、放射性セシウム吸収抑制のため、必ず基肥時に施肥(20kg/10a)してください。

天気予報 (仙台管区气象台発表 2月25日付け、3か月予報から)

時期	天 気	気 温
3月	平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
4月	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。	気温は、平年並または低い確率ともに40%です。
5月	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

床土の準備

培土の放射性セシウム暫定許容値は400Bq/kgです。山土等を利用する際は必ず検査を行ってください！

良い床土の条件は、①pHが4.5～5.5である、②排水性、保水性、通気性が良い、③細かい粒子があまり多くないことです。各種資材で調整してください。

- 1 物理性、保水性はピートモスで改善できます。床土の量に対して30%混和するとpHが1程度下がります。
- 2 pHミックスは、200～300g/箱でpHが1程度下がります。
- 3 育苗箱1箱当たりの施肥量は、チッソ2g、リン酸3g、カリ2gとします。

1箱当たりの施肥量

肥料	例1：単肥施肥			例2：稚苗用液肥源	例3：育苗箱専用	薬 剤 (苗立枯病、ムレ苗防止)
	硫安	過石	硫酸カ	(15-19-15)	(4-8-5)	
施肥量	10g	15g	4g	12～15g	40～50g	タカレースM粉剤 8g/箱

※単肥施肥の場合、pHが0.5程度下がるので注意しましょう。

種子の準備

～ばか苗病の発生が増えています。特に飼料用米では種子消毒を行い、育苗中に発生した場合は抜き取りましょう～

1 わら、もみがらの除去

昨年のもみ殻やわらには、いもち病菌が潜んでいる可能性があります。種子を取り扱う前に作業場やハウス内のわら、もみ殻を除去し、いもち病の感染を防止しましょう。

2 塩水選(比重選)

塩水選は、発芽力が高く、病気にかかっていない種子を選ぶために必ず行いましょう。塩水選後は軽く水洗いして塩分を取り除きます。

3 種子消毒(例)

塩水の作り方(水10ℓ当たり)

種 類	比 重	99%の食塩(kg)	21%の硫安(kg)
うるち	1.13	2.1	2.7
もち	1.10	1.6	2.0

使用する種子等	作 業 手 順	備 考
消毒済みの種子	塩水選⇒水洗い⇒浸種	◎もみ枯細菌病防除のため、 <u>28℃以下で管理しましょう。</u> ◎テクリードC707は消毒済み種子には使用しないで下さい。(化学反応で薬剤の効果が弱まる可能性があります。) ◎浸漬消毒の場合、もみと薬液の容量比は1：1以上として下さい。
消毒済みの種子 + もみ枯細菌病の防除	塩水選⇒水洗い⇒スターナ水和剤(0.5%湿粉衣)⇒風乾(4日間以上)⇒浸種	
未消毒種子 (もみ枯細菌病防除を含む)	塩水選⇒水洗い⇒テクリードC707(200倍液24時間浸漬)⇒風乾せず浸種	

※消毒済みの種子は、ヘルシードTフロアブルを処理してあります。

浸種 発芽を揃えるためには、十分に吸水させること + 酸素を十分与えることが大切です。

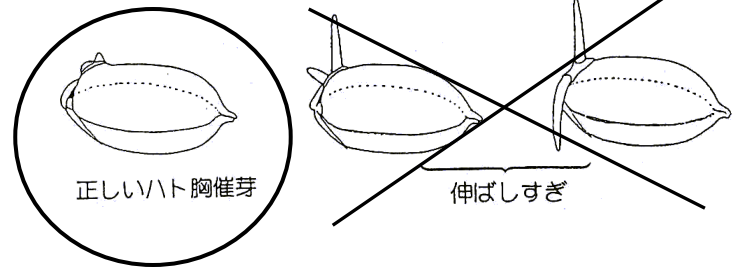
- 1 浸種水温は12～15℃を目安とし、10℃以下にしないようにしましょう。浸種期間は積算水温（水温×日数）で120℃が目安です。水温12℃の場合は10日程度、15℃の場合は8日程度を基本とします。
- 2 種もみ袋は余裕をもって、種子を八分目以下に詰めます。品種を間違わないよう、袋に品種の札をつけます。
- 3 薬剤が流出しないよう、浸種を始めてから3日間は水を交換しないようにします。その後は酸素供給のため1～2日の間隔で水を交換しましょう。

催芽（芽出し） ～温度計の併用で適正な温度管理を！～

播種前に、右図のようなハト胸の状態まで均一に催芽します。

育苗器や催芽器の温度設定は28℃とし、4～5日芽出しします。
（30℃以上ではもみ枯細菌病が発生しやすくなります）。

育苗器内では、温度ムラを防ぐため種もみ袋を薄く広げてください。



播種 ～健苗育成は薄播きがおすすめ！～

薄播きは箱数が多くなりますが、茎や根が太くなり、活着も早く、初期生育が良くなります。

1 播種量と育苗日数の目安

苗種	播種量 (乾粒重/箱)	育苗日数	葉 齢	備 考
稚苗	200g	20～25日	2.0～2.9	催芽もみは、乾もみの1.25～1.3倍重になります。
中苗	100g	30～35日	3.0～3.9	

2 薬剤防除（例）

購入培土は焼土殺菌してありますが、外部から菌が侵入すると一気に被害が広がる危険があるため、下記を参考に予防してください。（1箱当たり）

例1	【播種前床土混和】 タチガレエースM粉剤 6～8g（1回）	+	【播種時かん注】 ダコニール1000 500倍液0.5%（2回以内）
例2	【播種時かん注】 ダコニール1000 500倍液0.5%（2回以内）	+	【発芽後かん注】 タチガレエースM液剤 500倍液0.5%（1回）

厚播きにした場合・・・

【育苗期】	【移植以降】
①苗が徒長、老化する。	①活着が悪く分けつが遅れる。
②茎、根が細くなる。	②根が細く根張りが悪い。
③葉齢が進まない。	③開張せずズンドウ型のイネになる。

出芽 ～苗焼けには十分注意しましょう！～

1 育苗器を利用する場合 ～温度計を併用しながら、育苗器内の温度管理をすること！～

温度設定は28℃とします。（30℃以上ではもみ枯細菌病が発生しやすくなります。） 芽は1cm以上伸ばさないようにしましょう。品種を間違えないよう、苗箱出には名札等をつけましょう。

2 平置き出芽の場合 ～高温に注意！～

① 被覆資材の特徴を理解して、効果的に使用しましょう。

白色マット(保温マット等)：昼間の温度が上がりやすく苗ヤケの心配がありますが、低温時は管理しやすい。

銀色のシート(太陽シート等)：温度が上がりにくいので高温時は管理しやすいが、低温時は出芽に時間がかかる傾向があります。

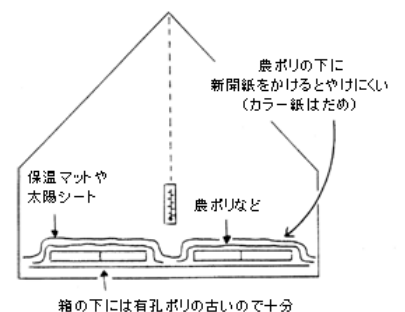
灰色のシートや灰色+白色のシート(シルバーラブ等)

：白色と銀色の中間の性質を持っています。

② 白色マットなど透過性の良い資材は、新聞紙をシートの下にかけるとヤケ防止になります。

苗箱付近の温度が30℃を超えないように注意しながら換気を行います。

③ シートの端にはおもりをのせるなどし、風でめくれないようにしましょう。



- 1 育苗期間中の天候不良が予想されております。催芽からハウス管理まで、温度管理に注意し、もみ枯細菌病などを出さないようにしましょう！また、育苗中に異常を発見した場合は、お近くのJA、県中農林事務所農業振興普及部または郡山市農業振興課へご相談ください。
- 2 農薬は登録内容や使用方法をラベル等で確認してから使用しましょう！